

＜県研究主題＞

社会的な見方や考え方を養いよりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 山本 麻美（横浜地区）

＜研究主題＞

問題解決的な学習や児童の主体的な学習を重視し、  
社会的な思考力・判断力・表現力を育てる学習指導のあり方  
～単元の中での思考場면을明確にし、子どもの見取りを生かした指導のあり方～

1 提案内容

(1) 主題設定の理由

社会的な思考力・判断力・表現力を育むためには、子ども一人ひとりが授業で取り上げる学習問題を自分ごととしてとらえ、自分の考えを再構成したり考えを表現したりしていく問題解決的な学習が大切であると考え、本研究の主題として設定した。

(2) 研究内容

社会的な思考力・判断力・表現力を育むために、「使った水はどうなるの？（廃棄物の処理）」の単元において思考場면을明確にし、子どもの見取りを生かした指導を実践する。

① 単元設定の理由

本単元は下水の処理の学習である。下水の処理は飲料水の学習に比べて、子ども一人ひとりが学習問題を自分ごととしてとらえにくい単元である。そこで、学習指導要領の分析を行い本単元で「何を」「どのように」思考するかを明確にした上で、思考の場面を設定していくことが大切であると考え。

② 「何を」考えるのか

学習指導要領の分析から、「自分たちが使った水の処理と自分たちの生活との関わり」と「下水に関する対策や事業は計画的、協力的に進められていること」の二つを考えることができるような場面を意図的に設定する。

③ 「どのように」考えるのか

4年生の社会的な思考力・判断力・表現力は、社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力である。このような力を育むためには、社会的事象を自分の目でよく見たり、調べたりすることが大切であると考え。主な思考方法は比較、関連付け、分類・整理、まとめ、再構成、具体化・抽象化である。4年生では「複数の情報を比較して、関連付けて、まとめて考える」ことにする。

④ 子どもの見取りを生かした指導

子どもたちが自分ごととして社会的事象をとらえ、互いの見方や考え方を示していくとずれが生まれ、そのずれが子ども達の問題意識を高めていく意欲になると考える。自己に引き寄せられた問題意識が生まれると、自分の考えの根拠を求めようになり、調べたり取材したりする必要性も生まれる。そして、子どもたちが調べたことを元に比較したり関連付けたりまとめたりすることを通して思考が深まっていくと考えられる。

## ⑤ 単元の指導と評価

単元の目標と毎時間のねらいを明確にし、それに即してどの時間にどんな観点で評価するかを作成する。なお、本実践では子どもたちが比較したり関連付けたりまとめたりすることができるよう子どもを見取り、その見取りを次の指導に生かしていくようにする。

## (3) 成果と課題

- ① 問題解決的な学習では、単元の中で「何を」「どのように」考えていくかを明確にしていくことで、どの部分で思考の場面ができるのか、その思考の場に向かってどのような事実を見ていくことが必要なかがはっきり見えてきた。
- ② 問題解決的な学習の中で取材したり体験したりしたことを根拠に話し合わせると、お互いの見方や考え方が関係付けられて追求がシャープになっていくことがわかった。さらに中学年においては、体験したり取材したりすることで言語活動が豊かになることもわかった。
- ③ 十分体験したり取材したりする時間を保証して事実をじっくり見て、思考することが大切であることがはっきりした。
- ④ 問題解決的な過程の繰り返しが問いの質を高め、指導のねらいに迫る追求を可能にすると考えられるので、単元の中で思考する場面を絞り、子どもにしっかりと根拠を持たせていくことが大切であると考えた。

## 2 協議内容

### (1) 子どもの問題意識の持ち方について

資料を出した後や、児童が調べた後に思考場面を作っていることで思考の深まりが出てくるのが子どもの変容などからよくわかった。意図的、計画的に思考場面を設定することはとても大切であることが確認された。

### (2) 鶴見川に対するイメージの変化について

鶴見川に対する子ども達のイメージは「川はくさくて、きたなくて行ってはいけない所」や「川はきれいにしなくてはいけない」などであった。子どもは鶴見川は近くにあるのに実際に見たことがなかったり、イメージで汚れていると思ったりしていた。水再生センターの役割を学習したり、水質改善のグラフを見たり、祖父母へのインタビューをしたりした。じっくり考えていくために一つひとつの事実をじっくり見ることを大事にしたり、子どもが読み取ったことをつなげて考えていけるように声をかけたりすることで鶴見川に対するイメージが変化した。

## 3 まとめ

問題解決的な学習とはどんなものか、振り返ることが大切である。まず、公民的資質の基礎を養うために子どもがどう社会的な見方や考え方を身につければよいのか、教員が意図的、計画的に子どもたちが思考する場面を設定して授業をしていく必要がある。そして、授業と評価の一体化において評価とは、Plan（教員が何を想定しているのか）Do（何を実行するのか）Check（どんな場面で何を使ってチェックするのか）Action（子どもの願いや実態から修正する）をよく考えていくことが大切である。さらに問題解決的な学習では、学習問題が子どもの思考とずれないように修正をすることが大切であり、そうすることで子どもにとって切実な自分ごとの学習問題になっていく。学習問題はいろいろな見方や考え方を子ども同士で補完しあうことで、質が高まり深まっていく。学習問題を深めると問題解決的な学習が深まる。子どもたちの思考に寄り添いながら作る授業、それが問題解決的な学習である。

**<研究主題>**

社会との関わりを実感し、自らの生き方を考えていく態度をはぐくむ「暮らしと政治」の授業づくり ～児童の主体的な問題解決学習をめざして～

**1 提案内容****(1) テーマ設定の理由**

児童の実態として、政治に対する興味、関心がうすい。そのため、興味がない子はおきざりになり、いつも発言する子が決まってしまう。また自分の考えを話して表現することに自信がもてない子もいる。だから児童が主体的に取り組む授業づくりを目指したい。そのためには、児童にとって身近で具体的な社会的事象である「税金」を題材に選んだ。「税金」を切り口に、自分と社会がどのようにつながっているのかを実感できるのではないかと考えた。

**(2) 提案内容****① 研究構想図、知識の構造図、単元構想図、実際の授業の流れ、学習指導案**

座席表指導案

**② テーマに迫るための手立て**

- 問題意識の連続性を大切に単元づくり→日本国憲法の学習をした後に、身近な暮らしと政治を取り上げた。
- 児童の思考の流れを大切にノート指導、自主自学ノートの活用→ノートでのふりかえり、自主学習での調査を授業の中で取り上げて、学びを深める。
- 座席表・指導案の作成、活用→座席表に児童の考えていることを書き込み、一人ひとりが考えていることを把握する。連続して児童の考えを書き込んでいくことで、児童の思考の変容をみとる。
- マイテーマ・マイアクション→学習の最後に、個人で学習の内容に応じたテーマ(マイテーマ)を設定し、調べ学習を行った。そのテーマのもとで、自分が考えたことや自分にできることがなにか(マイアクション)をまとめていく。

**2 質疑応答など**

- マイテーマ・マイアクションの設定はどのように行われ、教員はどう評価したのか、  
→その子の経験を重視し、教員と対話しながら決めていった。
- 話し合いで留意していること、本時のテーマ「これから税金を払い続けるわたしたち。一番大切なことは何だろう」は広いので、どう収束していったのか。  
→どの子も学習してきたことをもとに考えられるテーマにした。
- 座席表指導案のメリット、生かし方は。  
→教員が事前に子どもの考えを知ることができ、授業にのぞむ際に見通しが持てる。
- この単元の目標は「政治のはたらき」を理解することなので、「税金」の学習からその仕組みをつくっている方にも投げかける必要があるのでは。

提案1・2をふまえた協議

「児童が社会との関わりを実感し、主体的に学習するための手立て」とは

3 まとめ

(1) Aグループ

・自分の生活に生かされるような教材研究が大事。授業以外の時間を使った調べ学習が大切。

(2) Bグループ

・日頃から子どもをよく見取りたい。社会に目を向け、「問い」をもつ子を育てたい。そのための教室環境づくりが大切。

(3) Cグループ

・主体的に学習することで、教員のねらいとずれてしまう危険性もある。教員の助言や資料提示のタイミングが大事。

(4) Dグループ

・教材との出会いが大切。子どもたちが自分ごととして問題意識をもち、解決していく学習の積み重ねにより主体的な学びへと becoming していく。

(5) Eグループ

・身近な題材の活用、調べないといけない状況にする。子どもの問いから次の問題につなげる。

(6) Fグループ

・見学や、ゲストティーチャーに協力していただくことで身近にしていく。

4 指導助言（県教育委員会子ども教育支援課）

(1) 30年後の日本の人口は推定8000万人。今の子どもたちが働き盛り。その子たちが社会を担っていくための土台である、「ものを考え、判断し、表現する力」を身に付けることが重要である。

(2) 学習状況調査の結果から見えた課題

- ① 情報を基にして社会的事象の意味を考え、表現できるようにする指導の充実
- ② 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実
- ③ 問題解決の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする指導の充実
- ④ よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実